

大きに御座候是は兼入了簡にて、むかしは弱弓に輕き矢にて御座候ゆへ、中りにて期さのみゆるぎ申さず候當世は強弓に重き矢にて、中りつよく御座候ゆへ、ことのほかゆるぎ申に付、此圖の寸法に被致候無落は金森公御物ずきは切籠にて御座候へ共、瓢箪に兼入改申され候、此二色の外は皆々後水尾院様の御時に改申候格にて御座候也と云云、

〔楊弓射禮蓬矢抄追考〕楊弓興隆なれば、弓師矢師の本名所付まで記す、○中略

洛陽楊弓的并宮師

御幸町通五條上ル町 六兵衛 宗房

〔楊弓射禮蓬矢抄〕凡衛者豎横五尺、器者以金欄緞子紋紗縹子精好等縫之、以紫皮爲裝束、尋常人張水色布爲幕、

楊弓宮

〔楊弓射禮蓬矢抄追考〕楊弓興隆なれば、弓師矢師の本名所付まで記す、○中略

四條立賣柳馬場西江入町 右兵衛 定清 室町通今出川上ル町 清兵衛

〔楊弓射禮蓬矢抄追考〕一洛陽并江戸の射場の所付を記す事、若は田舎より楊弓を心がけ席に望む人おほし、且又楊弓興隆なれば、弓師矢師の本名所付まで記す、

洛陽射場所付

上京大峯之厨子 祐清 粉川通下立賣下ル町 五郎右衛門慶有 白山通誓願寺下ル町

甚兵衛 延長 西洞院通生洲町 利兵衛 松利 車屋町通御池下町 源右衛門

上長者町室町西江入町 遊行

江戸射場所付

橋町二丁目 鈴木三意 一計 湯嶋天神之門前 柏屋甚兵衛

此外所々雖有之、打出而之射場ニハアラズ、故ニ不記、